

要旨

研究目的

本研究は小児がん患児に対する口腔アセスメントツールを臨床の場に導入する過程における専門看護師(CNS)に期待される技術と役割を明らかにする事を目的とした研究である。

結果

文献検討と実践を通して、小児がん患者を対象とした口腔アセスメントツールを作成した。個別的な計画を立案するための定期口腔アセスメントシートと、口腔内の変化を正しく判断し、看護職間でのケアの継続と統一を図るための口腔フローシートの2つを口腔アセスメントツールとした。

3人の患児を対象に、病棟の看護師が口腔アセスメントツールを使用した。研究期間中、3人の患児には定期口腔アセスメントシートを用いた個別的なケアプランが立案された。また口腔フローシートによって、口腔内の変化が記述され、看護師間で統一したケアが継続された。対象となった3人の患児は、口腔トラブルの発生のリスクが高い状態にも関わらず、口腔アセスメントツールを活用し、ケアが行われた結果、口腔トラブルは発生しなかった。口腔アセスメントツールを使用しケアを実施した看護師の記録と、看護師を対象としたフォーカスグループインタビューで得られた回答より、口腔アセスメントツールは当該病棟の小児がん患児に導入可能であると考えられた。

考察

口腔アセスメントツールを臨床現場に導入する過程において、研究者が行った関わりを質的記述的に分析し、CNSに期待される役割と技術を明らかにした。その結果、口腔アセスメントツールを臨床現場に導入する過程には、「口腔アセスメントツールを使用するための関わり」、「口腔アセスメントツールを活用するための関わり」、「口腔アセスメントツールの使用を自信を持って継続するための関わり」の3つの関わりがあった。口腔アセスメントツールを病棟内で使用するために期待される役割には、【口腔アセスメントツールの認知を促す】【口腔アセスメントツールの正しい使用を促す】【口腔アセスメントツールを使用できているか確認する】の3段階が抽出された。口腔アセスメントツールを看護師が活用するために期待される役割には、【看護師の力を引き出す】が抽出された。実践の場で看

護師が口腔アセスメントツールの使用に自信を持って継続するための役割には【無理のない範囲で進める】【モチベーションの維持】が抽出された。

上記の役割を果たすために必要な技術を TRIP (Translating research into intervention) 介入モデルを用いて検討した結果、『口腔アセスメントに対するニーズを把握する』、『看護師との良好なコミュニケーションをはかる』、『看護師の特徴の把握』、『口腔アセスメントツールを導入する組織を分析する』であった。